

串本海中公園 マリンパビリオン

2010. 3

Vol. 39, No. 2



ボタンアオサ

Ulva conglobata

体は小型で高さ 2 ～ 4 cm、体は薄く幾つにも裂け、その縁は波打つように重なり合い、さながら八重咲きのボタンの花を思わせる。質はやや硬くパサパサとした手触りがある。色は緑色で透明感がある。波の穏やかな内湾の岩の上にごく普通に生育する。アオサ類は潮間帯付近に見られる種が多く、目につきやすい仲間であるが、体の構造が簡単で分類上での区別点が少ないので、種の識別が難しい仲間である。分布は本州太平洋中南部・四国・九州・南西諸島・朝鮮半島。写真は干潮時に鍬浦地先の潮間帯にて撮影したもの。アオサ目。 S.U.

串本海中公園センター

定置網で捕獲された魚種について(14)

2009年の結果

御前 洋

2009年に和歌山東漁業協同組合串本本所(以下漁協とする)が行った「朝競り」の市場に持ち込まれた定置網捕獲魚種を主体に生物調査をしたので報告する。調査期間は市場の開かれた1月5日～12月30日(毎週土曜日は定休日)である。対象とした定置網は、串本町大島周辺4ヶ所に設置されたもので、漁獲物は漁協に水揚げ後市場価値の有無により選別されるため、時間の許す限り毎朝漁協に出かけて調査を行った。なお、時化や潮流によって水揚げできない定置網もあるが、4ヶ所の定置網の何れかで水揚げがあれば、その日の捕獲種として集計した。調査日数は120日であった。

捕獲魚種

1年間に捕獲された魚種は23目108科279種、この内7種はこれまでの定置網で捕獲記録のないものであった(表1)。

表1. 2009年に新たに定置網で記録された魚種

1. サヨリ科	*サヨリ
2. アジ科	*インドオキアジ
3. "	*マルヒラアジ
4. イサキ科	*クロコショウダイ
5. フエフキダイ科	*ハナフエフキ
6. ハリセンボン科	*メイタイシガキフグ
7. ベラ科	カマスベラ

表中、*印を付したサヨリ、インドオキアジ、マルヒラアジ、クロコショウダイ、ハナフエフキ、メイタイシガキフグの6種は串本では初記録種、残る1種のカマスベラはイセエビ刺し網漁、潜水調査により既知種とされる魚である。このたびの報告で、定置網での捕獲魚種はこれまでの613種に7種が加わり、620種となった。

捕獲率の高い魚種

捕獲された279種の内、全調査日を通して出現した魚種はなかったが、マアジは全調査120日の中112日と、昨年に引き続き高頻度(93.3%

: 昨年 98.1%) で出現した。次に魚種毎の捕獲日数を月別に集計したところ、年間を通して捕獲された種はキンメドキ、イサキ、ネンブツダイなど29種、この中でムツ、カワハギ、ヤマトカマスなど18種は「競り」の対象とされる有用魚種であった。また年間捕獲率(捕獲日数/調査日数)が70%以上を示した魚種にマアジ(93.3%)、ムツ(90.0%)、カワハギ(88.3%)、イサキ(86.7%)、マルアジとウスバハギ(76.7%)、ゴマサバ(75.0%)、カイワリとキンメドキ(71.7%)、ヤマトカマス(70.0%)が挙げられ、この中のキンメドキ以外は競りの対象とされる有用魚種であった。これら年間捕獲率の高い魚種について過去の記録と比較してみると、上位5種の中の4種、即ちマアジ、ムツ、カワハギ、イサキは毎年5位内に入る串本代表種である。また本年の年間捕獲率の高かった残る6種にウルメイワシ、カタクチイワシ、ネンブツダイ、アカカマス、ハリセンボンを加えた11種は、年により順位の変動はあるものの、優占種といえる。

捕獲魚種特記事項

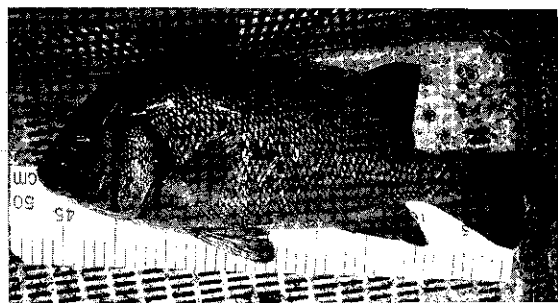
- (1) 2月2日 全長180cm大のハモが捕獲された。本種は串本では度々捕獲される有用魚種であるが、太さ10cm程もある大物が2個体捕獲され、選別する漁師さんや仲買人の間で話題となった。40年近く漁協で魚類調査をしているが、これだけの代物は初めてである(記録による最大全長220cm、串本での過去最長150cm)。
- (2) 4月17日 全長260mmのサヨリ1個体が捕獲された。串本におけるサヨリ科の魚種はナンヨウサヨリ、トウザヨリ、マルサヨリなど6種の記録があるが、サヨリはこれまで捕獲されていない。日本魚類検索図鑑(以後魚類検索とする)による本種の分布は北海道南部以南の日本各地(琉球列島、小笠原諸島での記録はない)となっており、いつ捕獲されるか心待ちにしていた。しかし、それ以後の捕獲はない。
- (3) 5月3日 ハタンポに良く似た体型をしたヒメシマガツオ1個体が捕獲された。本種は定置網では2004年6月以来の2個体目である。

(4) 7月20日 全長 140 mmのメイタイシガキフグ1個体が捕獲された。ハリセンボンに似るが、多数の棘は不動（前者は可動）で、背鰭基底下の両側面には眼球大の黒斑が3個ある（前者にはない）。

(5) 8月27日 全長 80 ~ 100 cmのハマダツガ100個体以上捕獲された。本種は2007年11月にも大量に捕獲された記録がある。

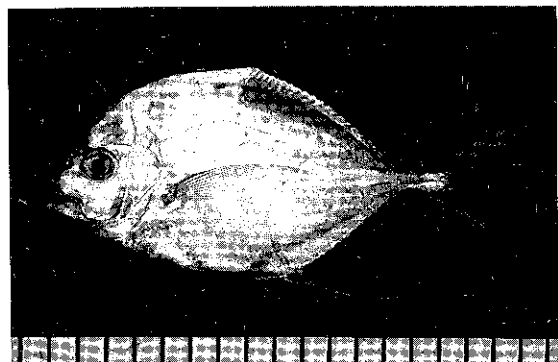
(6) 9月20日 全長 256 mmのカマスベラ1個体が捕獲されたが、既に死亡していた。定置網では初記録である。

(7) 9月27日 全長 485 mmのクロコショウダイ1個体が捕獲され、漁協に持ち込まれた。全身暗褐色で、時折2本の淡褐色帯が体側に出現する。外傷が少なかったので薬浴後、大水槽に収容、展示中である。魚類検索による本種の分布域は琉球列島、~インド・西太平洋となっているところから、本種の北限の記録と思われる。



クロコショウダイ 全長 485 mm

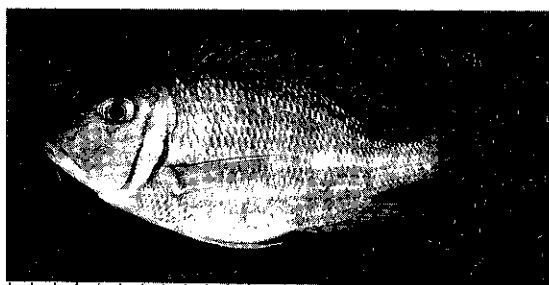
(8) 10月22日 全長 179 mmのマルヒラアジ1個体が捕獲された。キイヒラアジに似るが、本種の胸鰭前部の鱗は基底下部にまで達し、前種



マルヒラアジ 全長 179 mm

は達しない。串本初記録と思われたが、標本を調べたところ、1997年10月と11月に全長 41 mmと 51 mmの幼魚が捕獲されている事がわかった（未発表）。

(9) 10月30日 全長 223 mmのハナフエフキ1個体が捕獲された。前鰭蓋骨と主鰭骨の外縁は赤褐色、また側線上に2本、側線より下側には5本の橙褐色縦帯を持つ派手な魚である。魚類検索による本種の分布は沖縄県~東インド洋となっているところから、本種の北限の記録と思われる。串本町に在住するダイバー、参木正之氏によると2006年11月に串本町袋港内で全長約 10 cmの若魚を確認したという。



ハナフエフキ 全長 223 mm

(10) 11月19日に全長 288 mm、同23日には全長 310 mmのインドオキアジ各1個体が捕獲された。オキアジに良く似た体型であるが、前者の体色は暗褐色であるのに対し、本種は体背部は暗緑色、体腹部は銀灰色である。胸部から胸鰭基底にかけての無鱗域は連続しているが、前者は不連続である。また各鰭の先端は白色で、体側には5本の淡暗灰色帯がある。魚類検索による本種の分布域は琉球列島以南となっているところから、本種の北限の記録と思われる。

(11) 11月22日 全長 50 cmのマンボウ1個体が、また27日には55 ~ 65 cmのもの4個体が捕獲されたが、いずれも既に死亡していた。

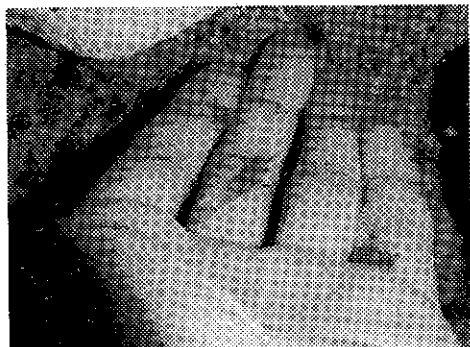
(12) 12月13日 全長 280 mmのテングハコフグ1個体が捕獲されたが、既に死亡していた。

この他魚類以外では、8月19日にエラブウミヘビ1個体が、10月27日にはタコブネ1個体が捕獲されたが、いずれも死亡していた。

特別企画「癒しの海へようこそ」開催中 野村 恵一

海は人を癒す効果があると言われています。地先の海をテーマとする串本海中公園センターでは、お客様により多く、そしてより深く癒しを体感してもらおうと、表記の特別企画を開催しています。ここでは、その内容について紹介させていただきます。

概要を右欄に記しました。本企画は水族館内の展示、複数の施設での体感、ならびにイベントの3つのセクションからなります。お勧めはたくさんあるのですが、1つは癒しの海の写真展です。海のプロたちが、海のどのような所に癒しを感じているかがお分かりいただけます。また、私の愛するテッポウエビのパチパチノイズも展望塔でぜひ聞いていただけたらと思っています。本企画を開催して1ヶ月程が過ぎましたが、人気を集めているのが Dr. シュリンプです。これはイソスジエビのクリーニング(図2)習性を利用したもので、水槽に手を入れるとエビが手の上に乗る、皮膚を掃除(クリーニング)してくれます。この際のエビのくすぐり感が喜ばれています。このコーナーは有名な Dr. フィッシュにヒントを得たものですが、イソスジエビがクリーニング習性を持つことは以前から確認しており、磯体験の際にはタイドプールに足を入れこの習性を楽しんでもらっていました。これを応用して水族館内でも体験できればと企画を温めていましたが、今回、実現の運びとなりました。こちらもぜひご体感ください。



掌に乗ってクリーニングするイソスジエビ

特別企画 「癒しの海へようこそ」の概要

「期間」 2010年2月6日～同年7月11日

「水族館内展示」

- ・アロマジャングルと流木チェア
くつろぎの空間を創出。アロマは月替わり。
- ・癒し系生物の展示
クラゲ、タツノオトシゴ、ウミウシなど癒し系生物約6種50点の生体展示。
- ・マリンアートの展示
牛嶋浩美氏のイラストと写真のコラボレーション
田中鱗水氏の魚の木彫り
谷口岬人氏の色彩魚拓
林 洋子氏のマリンアート
自然の造形美(貝、サンゴ、カイメン等の標本展示)
- ・癒しの海のスライドショー
海のデジタル画像約200点のスライドショー
- ・癒しの海の写真展
海のプロが自選、作者の解説付き。作品提供者:
赤木正和、伊藤勝敏、上田直史、加藤文雄
亀崎直樹、高木 裕、土居功一、土居康子、富弥 充
林 公義、古見きゅう、程原裕次、参木正之
峯水 亮、宮道成彦、山崎公裕、米田和義
- 「体感」
- ・赤ちゃんウミガメタッチング
水族館内12:30～14:30 木曜休み
- ・Dr. シュリンプ
イソスジエビのクリーニング
- ・コーラルロードを散策しよう
鰐浦海岸のサンゴ堆積海岸のコース紹介
- ・展望塔で海中の自然音を聞く会
毎日10時と14時の2回、波の音やテッポウエビのパチパチ音が聞ける
- 「イベント」
- ・私の選んだ癒しの海 写真コンテスト
一般公募、サービспリントサイズ写真受付、審査で賞品、応募先は弊社「癒しの海写真コンテスト」係まで
- ・串本海中公園 癒し系生きもの人気投票大会
春休み期間中、抽選で賞品プレゼント
- ・海のお魚の塗り絵大会
水族館内、4月11日まで、絵は館内展示

海中展望塔に集まる魚 (33)

2009年1月~12月

小寺 昌彦

2009年は毎月10日、年間120日の観察で155種の魚類が記録された。年間出現種数は最多記録となった前年の188種から33種減少し、増加続きだったものが4年ぶりに減少に転じた。日別出現種数は1月8日の67種が最多で、最多種数が70種未満になったのは2005年以来5年振り、1月に最多となったのは2000年以来4度目である。最少種数は前年と同じ33種(4月2日)であった。

月間出現種数を見ると、1, 2月は87, 86種と非常に多く、水温の下がった3月以降やや減少して、4月に本年最少の68種となり、その後の5~7月は80種ほど、8月以降は90種ほどに増加して、11月の94種が最多となった。2月と5月にはこれらの月の過去最多の出現種数が記録された。秋季の月間出現種数はこの3年ほぼ100種以上を記録していたが、本年は一度も月間100種を記録できなかった。

さて、本年記録された155種のうち、前年との共通種は136種で、前年見られなかった魚種は19種であった。このうち、8月1日に出現したイソスズメダイのみが展望塔での初記録種となった(表*印)。イソスズメダイは近縁のシマスズメダイなどと一緒に夏季の潮間帯で幼魚が普通に見られる種である。シマスズメダイと違い潜水中に成長した個体を観察したことがなかったが、展望塔に出現した個体は10cmほどで潮間帯を離れて越冬した個体と思われる。また、イソハゼ属の一種(表**印)は前年までナンヨウミドリハゼ?としていた種だが、鯖浦地先での採集個体を調べた結果、水深5m程度に多く生息して展望塔でも見られる種がナンヨウミドリハゼではないことが判明したので、暫定的にイソハゼ属の一種とした(ナンヨウミドリハゼは体色が鮮緑色で、潮間帯に多い)。

年間出現率が80%(96日)以上の常連種は22種で、前年より4種減少した。100%出現した

のは10種で、前年より1種減少した。前年との変化では、ホウライヒメジ、トゲチョウチョウオ、ブチススキベラ、クギベラ、テンクロスジギンポ、ハリセンボンの6種が80%未満になり、ミギマキとキタマクラの2種が80%以上になった。キタマクラは3年ぶりの常連返り咲きとなった。ミギマキは初めての常連入りで、同じ科のタカノハダイがほとんど常連入りを続けているのとは対照的である。ミギマキは水深20m前後の岩礁域でよく見られることから、展望塔のような浅い所ではあまり見られないものと考えていた。しかしながら2008年春頃から鯖浦地先での潜水中に10cm以下の小さなミギマキを見る機会が増えた。この頃から小さなミギマキが展望塔に時々出現するようになり、本年は成長して20cmくらいになった数個体が出現し続けた。前年と比べて20%以上出現日数の増加が見られた種は前述したミギマキとキタマクラ以外にアオブダイ(20.8 → 55.5%)、トノサマダイ(46.7 → 77.5%)、クサフグ(56.7 → 77.5%)であった。トノサマダイは6月以降、複数個体が普通に見られるようになり、8月中旬以降は10個体を超えることも度々であった。しかし、後述する10月の台風以降に個体数が減少し、見られない日も増えた。クサフグは2007年に6.7%、2008年に56.7%と、前年より出現率が著しく増加しているだけでなく、個体数も徐々に増加している。最近では連絡橋の下で水面近くに30個体前後がメジナに与える配合飼料を狙って集まっている。

さて、前年と比べて減少をした種はニシキブダイ(66.0 → 2.4%)、イシガキスズメダイ(77.5 → 34.2%)、トゲチョウチョウオ(93.3 → 53.3%)、ブチススキベラ(83.3 → 45.0%)、テンクロスジギンポ(82.5 → 44.2%)、サザナミハギ(44.2 → 12.5%)、ヤンセンニシキベラ(32.5 → 0.3%)などで、20%以上の減少が見られた種は23種もあった。イシガキスズメダイの減少は前年と異なり展望塔で越冬して周年見られた個体がいなかったためである。トゲチョウチョウオ、ブチススキベラ、テンクロスジギン

ポは台風後に出現率が大きく下がっており、台風の影響が減少に大きく関わった種と言える。

2009 年の特徴は、3 年振りの出現種の減少にある。年間 155 種という値は 1998 年と並んでこれまでの第 5 位となり、決して少ない数字ではないが、2006 年以降右肩上がりだった出現種数が減少に転じた。この減少の要因として最も大きなものは、10 月に潮岬沖を通過した台風 18 号であろう。台風の高波によって展望塔周辺は通常では考えられないような大波が押し寄せ、サンゴが半分以下に減少した。台風の影響で展望塔周辺の魚たちの多くは姿を消した。その後水族館スタッフによるサンゴの移植が行われたものの、貧弱になったサンゴ群落に魚たちは戻ってこなかった。その結果、10 月の出現種数が著しく減少し、11 月以降も出現種数は増加していない。2007 ~ 2009 年と台風の被害が大きかった 2004 年の月平均出現種数を右図に示した。これによると、2007 年は 9 月から、2008 年は 8 月から出現種数が大幅に増加して、10 月以降は 60 種以上が続いた。これに対し、本年は 9 月に増え始めた種数が 10 月に大きく減少し、11 月以降 50 種程度の少ない値が続いた。本年と 2004 年は台風による大きな攪乱を受けており（2004 年は展望塔の連絡橋

も落下した）、よく似た出現傾向が見られた。大きな台風の通過による攪乱と、その後の出現種数の少なさの関係がはっきりと示されたのではないだろうか（当時は台風でなく、夏から黒潮が潮岬から離れたために、10 月以降平年値以下の水温となったことを理由と考えていた：Vol. 34, No. 2 参照）。

台風後に出現種数は激減したが、これに変わってキビナゴの大群が展望塔周辺に現れた。出現日数に差がないために記録上の違いは出ないものの、10 月以降のキビナゴの個体数が非常に多かったのが特徴的であった。キビナゴを狙ってオキザヨリ、ヘラヤガラ、大型のアジ類、アオリイカなどが集まり、キビナゴの群れに襲いかかる様子は、観察時の新しい楽しみとなった。

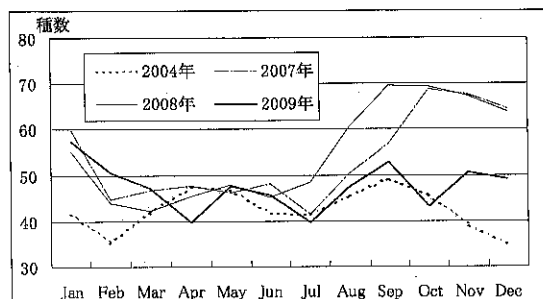


図. 2004, 2007 ~ 2009 年の月平均出現種数

種 名	JFMAMJJASOND	日数
ウツボ	-----1-----	1
ワカウツボ	1-1-111-1111	16
ウルメイワシ	-----22-----	5
キビナゴ	421-2-1-1555	42
ゴンズイ	21-1-11212-1	14
アカエソ	-----1-----1111	9
ボラ	322-22123232	63
ムギイワシ	545442231222	63
ギンイソイワシ	2244-----34455	60
オキザヨリ	-----122-----	12
ヘラヤガラ	1-----1-111111	15
アオヤガラ	1-----112-----	7
カサゴ	1111111111111	27
ハナミノカサゴ	1-----1-1-----	4
ヒラスズキ	-----1-----	1
キンギョハナダイ	-----11-----	5
スジアラ	-----1-1-1-----	4
ヌノサらし	-----1-----	3
オオスジイシモチ	2221112-----11	37
クロホシイシモチ	2434555122--	89
キンセンイシモチ	2211-----	14
カンパチ	-----21-----	5
ブリ	-----1-----	1

種 名	JFMAMJJASOND	日数
カスミアジ	-----1-1-----	2
マルアジ	34522-----21	31
シマアジ	---12-1-----	9
バラフェダイ	22-----11---	22
ヒメフェダイ	-1-----1-----	2
クロホシフェダイ	---1-1-11---	7
フエダイ	---11-21-1-	12
クロサギ	1-121-22122	44
イサキ	-----11-----	2
クロダイ	-1-----1-----	2
ヘダイ	-----1112-----	7
ノコギリダイ	1-----1-----	1
ハマフエフキ	--1-221-111-	24
アカヒメジ	-1-24222221-	49
ホウライヒメジ	222322122122	87
コバンヒメジ	-----1-----	1
オジサン	221111122221	53
ミナミハタンボ	---1-----	1
トゲチヨウチヨウウオ	222111222111	64
チヨウチヨウウオ	333334443333	120
ミゾレチヨウチヨウウオ	21-----	12
ニセフウライチヨウチヨウウオ	1-----1-1-----	5
チヨウハン	--1-----1-11-	4

種 名	JFMAMJJASOND	日数
ミスジチヨウチヨウウオ	21-----	12
アケボノチヨウチヨウウオ	-----122--1	14
スミツキトノサマダイ	221---222211	54
トノサマダイ	332112333232	93
ヤリカタギ	-----121--	15
フウライチヨウチヨウウオ	21-----11221	36
サザナミヤッコ	----1--111--	8
ノトイスズミ	223232222233	93
テンジクイサキ	222222222222	89
ミナミイスズミ	112211112222	44
イスズミ	112111-11122	33
クロメジナ	434544444433	118
オキナメジナ	111-11111122	25
メジナ	555555555555	120
タカベ	-1--1-----	2
カゴカキダイ	11--12-23112	39
イシガキダイ	---1-11---1-	9
ヒメゴンベ	---11-111-	6
ミギマキ	222232222222	101
タカノハダイ	222222222222	106
クマノミ	333333333333	120
アマミスズメダイ	22211---1111	33
シコクスズメダイ	-----12---	11
ミツボシクロスズメダイ	-----1---	2
テンジクスズメダイ	2222321-2232	82
イソスズメダイ*	-----1---	1
ロクセンスズメダイ	222111-12221	42
オヤビツチャ	334343233333	111
イシガキスズメダイ	22-----1222	41
ハクセンスズメダイ	-----1-	1
メガネスズメダイ	1-----1222	31
ソラスズメダイ	555555555555	120
セダカスズメダイ	333233223333	120
フチドリスズメダイ	333233323233	120
コブダイ	1-----1-	2
ブチスキベラ	122222211111	54
ムシベラ	11-----	3
カマスベラ	-----11	3
カンムリベラ	1221111111--	33
クギベラ	222222221122	83
イナズマベラ	-----1---	1
キュウセン	--1-111-----	7
ホンベラ	2222222-----	57
ナメラベラ	-----1-	2
シロタスキベラ	---111---11	5
ホンソメワケベラ	333333223222	117
アカササノハベラ	333333333333	120
アカオビベラ	-----11-121	13
カミナリベラ	334443333344	119
オニベラ	-----1-----	2
コガシラベラ	333333222222	104
ニシキベラ	333333343333	120
セナシジベラ	222122222222	86
ヤンセンニシキベラ	----1-----1	3
オトメベラ	334433333333	120
ヤマブキベラ	333322222222	109
アカテンモチノウオ	-----1	2
ハゲブダイ	211--112----	16
ヒブダイ	222222222222	81
ダイダイブダイ?	111--122211-	22

種 名	JFMAMJJASOND	日数
フチブダイ	1-----	1
アオブダイ	112122222221	66
ニシキブダイ	-1-----1----	2
オウムブダイ	21---111-1-1	15
ナガブダイ	2222211--112	56
オビブダイ	12-1-----	5
アオブダイ類 (幼魚)	-----12-	10
ブダイ	333333333333	120
ヘビギンボ	--1--1-----	3
ゴマフヘビギンボ	--1111-----	9
ヨゴレヘビギンボ	---1--1--1--	2
アメミノカエルウオ	-----1	1
ミノカエルウオの一種	-----11-	4
セダカギンボ	-----11--	2
カモハラギンボ	-1111211111	29
ニジギンボ	-----2	8
ミナミギンボ	222211121--	51
テンクロスジギンボ	22211222111-	53
イソハゼ属の一種**	-----1-1--	2
クツワハゼ	-1--11-----1-	6
アカハチハゼ	-----11--	4
クロユリハゼ	-----1--	1
アイゴ	211122222233	74
ツノダシ	222222222222	101
ミヤコテングハギ	21-----11--	18
テングハギ	--121212112-	33
サザナミトサカハギ	-----221--	14
ニザダイ	333332333333	119
ゴマハギ	22-----	15
ヒレナガハギ	-----1-1-	3
ニセカンランハギ	222222121222	79
ナガニザ	2221-1223111	53
モンツキハギ	-----1--	1
サザナミハギ	211-----1111	15
アカカマス	--1-----	1
ツマジロモンガラ	-----11--	2
アオサハギ	---11-1-----	5
アミメウマツラハギ	-----1--	1
ニシキカワハギ	-----1--	2
カワハギ	111121111111	31
ウミスズメ	-111111-1112	24
シマウミスズメ	211112111112	36
ミナミハコフグ	-----1--	3
ハコフグ	223222222222	108
サザナミフグ	-----1--	2
クサフグ	333342221224	93
キタマクラ	223222222222	98
イシガキフグ	11-111111122	40
ハリセンボン	222222222222	93

*は塔での初記録

**はこれまで出現したものとの名前を変えたもの

表中の数字は月の出現度

(1: 少ない, 2, 3: 普通, 4, 5: 多い)

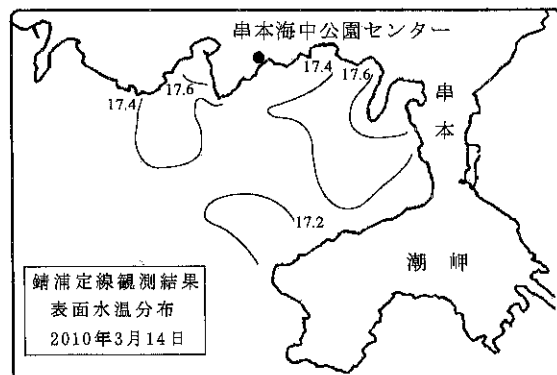
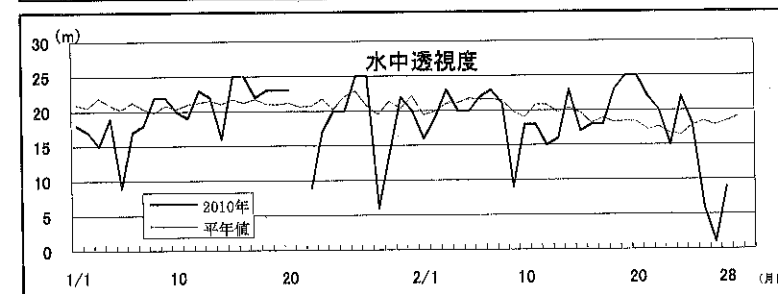
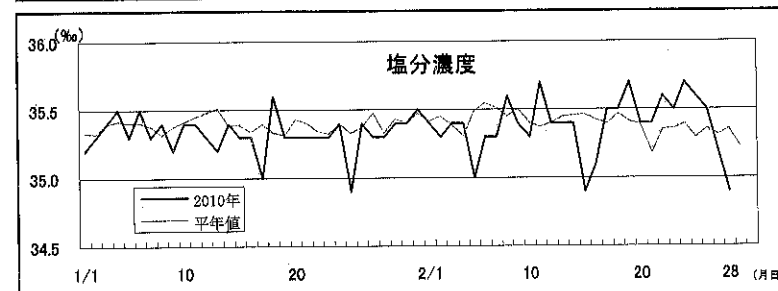
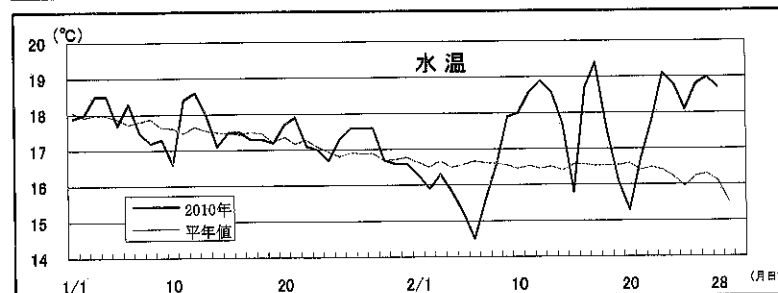
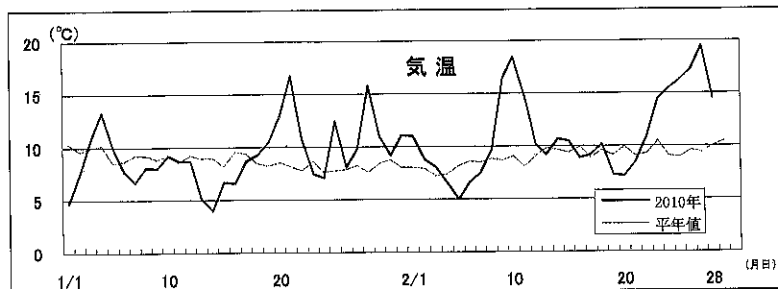
月 Ja Fe Ma Ap Ma Ju Ju Au Se Oc No De ALL
出現種数 87 86 74 68 80 80 78 88 96 91 94 85 155

(出現種数の下線は月間最高記録を表す)

鯖浦の海から

森 美枝

平均値	1月	気温 9.3℃	水温17.5℃	塩分濃度35.3‰	水中透視度19.2m
	2月	気温11.2℃	水温17.4℃	塩分濃度35.4‰	水中透視度17.9m



私の母や祖父は南海、東南海地震の経験者である。66年前の東南海地震では、祖父は津波を経験した。河口近くの造船所で働いていた祖父は津波から避難すべく土手を上ったが、船で川を渡ろうとして津波に流された人もいたという。川向こうに住んでいた人が家に帰ろうとしたらしい。津波が来ると分かっているにもかかわらず正しく行動するのは難しい。チリで起きた大地震で串本にも津波警報が出た。電車は止まり、地区によっては避難指示も出た。だが多くの人は避難せず、私たちも含めて危機感がなかった。日頃台風で4、5mの波は当たり前私たちは、予測された1～2mの津波など大したことはないように思ってしまう。台風の波と津波は全く違うと言葉で分かっているにもかかわらず実感はともなわないのだ。その後ある番組で津波が町を襲う様子をCGでリアルに表現していた。海が盛り上がり溢れてくる感じが気味悪く、その時初めて恐怖を覚えた。今回は「過大な予測」だったらしいが、怖いのは次もそうだと思う。今度実家に帰ったら今一度母の話に耳を傾けてみようと思う。

マリンパビリオン Vol.39, No.2 通巻410号

年6回発行 一部100円
(年間購読料1,000円/送料含む)
発行日 平成22年3月31日

編集兼発行人

〒649-3514 和歌山県東牟婁郡串本町有田1157
(株) 串本海中公園センター
電話 & FAX 0735-62-4875
ホームページ <http://www.kushimoto.co.jp/>
印刷所 坂本印刷